

ダニ媒介感染症について

マダニはライム病・回帰熱・日本紅斑熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少性症候群（SFTS）などの病気の原因となる病原体を保有していることがあり、刺されることでこれらの病気に感染することがあります。（右図）

マダニとは

- マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型のダニで、食品等に発生する「コナダニ」や、絨毯や寝具に発生する「ヒョウヒダニ」など家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。（右図）
- 草原や林内などに広く生息していますが、林道とけもの道の交点付近などは生息密度が高く、屋内、住宅街や公園内、畑地や牧草地などヒトの管理の行き届いた場所には、ほとんど生息していません。
- 吸血を始めると口器からセメント質を分泌し、1日もすると口器の周りをしっかりと固めるので、ダニの体を引っ張っても取れなくなります。吸血期間は一週間から10日間に及びます。

予防方法

- マダニに刺されないようにすることが重要です。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに刺される危険性が高まります。
- 草むらや藪・森林などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大事です。
- ディート（図左）やイカリジン（図右）という成分を含む虫除け剤の中には服の上から用いるタイプがあり、補助的な効果があると言われていますが、マダニを完全に防ぎわけではありません。虫除け剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取る必要があります。
- 屋外活動後は、すぐに入浴し、体や頭をよく洗い、新しい服に着替えましょう。
- ダニ媒介脳炎予防にはワクチンがあります。渡航・ワクチン外来で接種が可能です。（予約制）

マダニに刺されたら

- マダニ類は体部をつまんで引っ張ると口器がちぎれて皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりする恐れがありますので、医療機関（皮膚科等）で処置（マダニの除去、洗浄など）をします。
- 感染症内科外来（内科 24）、感染制御部にマダニ除去器具（右図）がありますので、必要な場合貸し出しもします。



予約：渡航・ワクチン外来

動画：マダニの除去

出典：北海道衛生研究所

北海道のダニ媒介感染症発生状況（2013年第1週～2025年第25週、2025年7月7日時点）

感染症発生動向調査の報告データなどを元に作成

